



雲雀丘学園中・高ギター・マンドリン部の部員たち=いずれも宝塚市雲雀丘4丁目

雲雀丘学園中・高 (宝塚市)

どう弾く皆で試行錯誤



阪急宝塚線とJR宝塚線の線路に挟まれた小高い丘。雲雀丘学園中・高(宝塚市)の校舎に、ギター・マンドリン部の躍動感あふれる弦楽器の合奏が響き渡った。

マンドリンはイタリア発祥の弦楽器だ。イチジクの実を二つに割ったような胴に、2本ずつ対になった8本の弦が張られている。部長の川上澁己さん(高2)はその音色について「柔らかさ、きらびやかさ、激しさなど様々な魅力があまりす」と話す。

部員は中学1年から高校2年までの66人。楽団(オーケストラ)はマンドリンとギターのほか、マンドリンより一回り大きいマンドロラ、さらに大きいマンドロ

顧問教諭はサポート役

ンチェロとコントラバスで構成される。古典からアニメの主題歌まで曲のレパートリーは幅広く、年3、4回は地元周辺で演奏会も開いている。

部に決まった指導者はいない。この曲はどう弾けば良いのか。部員同士で試行錯誤しながら、練り上げていくのが「ヒバリ」流だ。「この音、小刻みに鳴らそうか」「小刻みだとカチッ



話し合いながら練習を進める部員たち

とし過ぎちゃうよね」「伸ばすと他の楽器の音が聞こえづらいよ」。練習中、活発に議論する。

部員が担う。「上手な人にアドバイスをもらいます。速く、うまく弾くための練習法を川上部長に教えてもらいました」と浜辺幹太さん(高2)。連日1〜2時間ほどの練習の内容も部員が決める。顧問の中山裕子教諭は「顧問はあくまでサポート役。部費の管理や練

雲雀丘学園中・高(宝塚市雲雀丘4丁目) 1963年に中学、56年に高校が開校。初代理事長はサントリー創業者の鳥井信治郎氏が務めた。鳥井氏が説いた「親孝行な人はどんなことでも立派にできる」を教育理念としている。

昨年11月、県予選にあたる「県高校ギター・マンドリンフェスティバル」で最優秀賞を受賞し、今年7月の全国コンクール出場を決めた。晴れ舞台で指揮者を務める武内翠さん(高2)は「息の合った演奏と音の厚みがヒバリの特徴。目指すは(最優秀賞の)文部科学大臣賞」と力を込めた。(山崎毅朗)

今年4月で創部53年を迎える同部は全国で唯一、1971年に始まった「全国高校ギター・マンドリン音楽コンクール」に第1回から出場している。全国コンクールでは優れた演奏に贈られる特別賞の常連校になっており、昨年は過去最高の成績となる全国知事会賞(3位に相当)に輝いた。好結果を出し続けている理由について、中山教諭は「部員同士、楽しみつつ競い合っているからでしょうか」と話す。

今年4月で創部53年を迎える同部は全国で唯一、1971年に始まった「全国高校ギター・マンドリン音楽コンクール」に第1回から出場している。全国コンクールでは優れた演奏に贈られる特別賞の常連校になっており、昨年は過去最高の成績となる全国知事会賞(3位に相当)に輝いた。好結果を出し続けている理由について、中山教諭は「部員同士、楽しみつつ競い合っているからでしょうか」と話す。